

# 第2章

## 市域の概況と課題

1	盛岡市の概況	10
2	盛岡市の現況と課題	12



中津川の鮭

## 1 盛岡市の概況

### (1) 位置と地勢

本市は、岩手県のほぼ中央に位置し、東西約 45.6 km、南北 40.7 kmにわたり最高点は南東部に位置する早池峰山に連なる毛無森山の標高 1,472.2m、最低点は北上川流域乙部の標高 99m で、総面積は 88,647ha となっています。

岩手山や姫神山をはじめとした山々が連なり、市内を流れる北上川、中津川、雫石川、市街地を囲む田園地帯や丘陵地などの自然に恵まれた環境にあります。また、県都として、都市的な機能としての役割を担いながら、城下町形成以降の歴史的文化的景観も見られるなど自然環境と都市機能の調和に加え、歴史と文化を備えたまちとなっています。

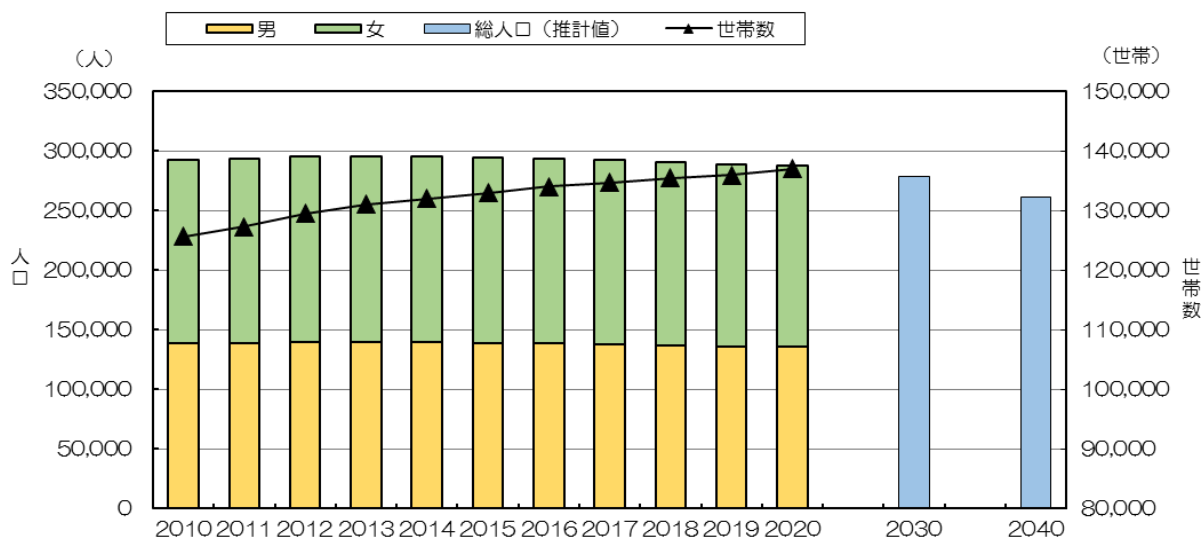
### (2) 人口

2020 年 12 月末日における本市の総人口は 286,820 人であり、男女別では男性が 135,469 人、女性が 151,351 人となっています。

1995 年度からの推移をみると、2006 年 1 月に玉山村との合併により人口が増加しましたが、その後増減を繰り返し、2015 年度以降では減少傾向にあります。このような人口の減少は、今後も続くことが予想され、盛岡市人口ビジョンでは、市民の結婚・出産・子育てや就労の願いに応えると仮定した場合でも 2040 年に 26～27 万人程度になると推計されています。

一方、世帯数は年々増加しています。

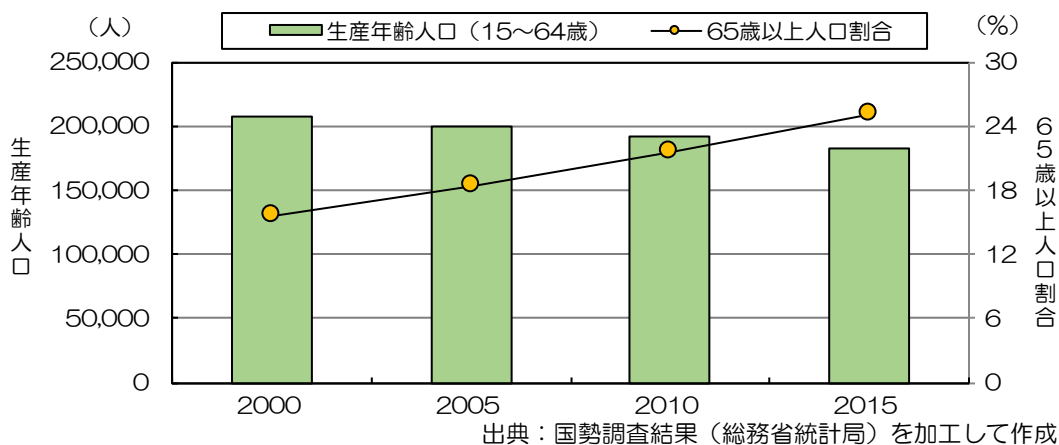
盛岡市における人口及び世帯数の推移



出典：2010～2020 年データは、住民基本台帳による  
 2030 年、2040 年データは、盛岡市人口ビジョン（2015 年 10 月 盛岡市）  
 における合計特殊出生率が岩手県の推計と同様の伸び率を示した場合の推計人口

年齢別人口では、生産年齢人口が減少傾向にある一方で、高齢者人口の割合は高くなる傾向となっています。

盛岡市における生産年齢人口（15～64歳）と65歳以上人口割合の推移



### (3) エネルギー収支\*

環境省が提供する地域経済循環分析\*ツールを用いた本市の分析結果では、燃料や電気などのエネルギーに関する収支を示すエネルギー代金\*は、GRP（域内総生産）\*の1.8%に当たる198億円が市外に流出しており、流出額は、石油・石炭製品が最も多く、次いで石炭・原油・天然ガスとなっています。



盛岡城跡公園から菜園通り方向を望む

2 盛岡市の現況と課題

(1) 経済的な現況と課題

本市の経済の循環構造は、エネルギー代金が市外に流出している状況にあることから、地域におけるエネルギー収支の改善につながる取組が必要となります。また、生産年齢人口の流出の課題に対応する取組も重要となります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
エネルギー代金の流出	エネルギー収支の改善に関する取組	第4章 - 1 - (3) エネルギーの収支改善 (P28)
生産年齢人口の流出	新たな技術を活用した人手不足の克服	第4章 - 1 - (2) 新たな技術の活用 (P27)

(2) 社会的な現況と課題

本市は、県都として、都市的な機能としての役割を担いながら、豊かな自然を有しており、また、城下町形成以降の歴史的文化的景観も見られるなど、自然環境と都市機能の調和に加え、歴史と文化を備えたまちとなっています。

このような環境や文化は、将来世代に継承していく必要がありますが、近年の人口減少傾向は、今後も続くことが予想され、環境保全等に取り組む担い手の不足が懸念されます。そのため、各主体の協働や環境啓発を通じた担い手の育成が今後必要となります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
人口減少に伴う環境保全等に取り組む担い手の不足	各主体の協働による取組	第4章 - 2 - (3) ネットワークづくり (P31~32) 第4章 - 3 - (2) 環境啓発の推進 (P34)
	環境啓発を通じた担い手の育成	第5章 - 1 各主体が協働しながら、持続可能な社会を形成し、継承するまちづくり (P39~41)



盛岡城跡公園の紅葉

### (3) 環境の現況と第二次計画における課題

第二次計画では、5つのめざす環境像を実現するため、それぞれに総合的な指標と管理指標を定め、進捗管理を行ってきました。第二次計画での課題や環境の現況は次のとおりです。

(第二次計画の指標の達成状況一覧は巻末資料-P12 参照)

#### ア 協働・継承（啓発）

第二次計画においては、環境学習拠点の整備や、環境学習講座の継続的な開催など、環境保全活動を担う人材の育成を行うとともに、事業者等との協働による事業の実施、各種イベント等を通して立場を越えた情報や人的交流の促進を実施してきました。指標として用いた環境啓発事業等への参加者数も高い水準を維持しており、市民・事業者意識調査では、環境が良くなったと感じている市民の割合が多いなど、これまでの環境に関する取組の成果が現れています。

しかしながら、環境に関する課題は日々変化しており、気候変動が自然環境や生活環境の課題にも影響するなど、それぞれが関連し複雑化しています。今後は、そのような状況にも対応するため、これまで以上に各主体による協働を推進するとともに、充実した環境啓発を実施していくことが重要となります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
複雑化する環境課題への対応	各主体の協働による取組	第4章 - 2 - (3) ネットワークづくり (P31~32)
	充実した環境啓発の実施	第4章 - 3 - (2) 環境啓発の推進 (P34) 第5章 - 1 各主体が協働しながら、持続可能な社会を形成し、継承するまちづくり (P39~41)

#### 盛岡市のシンボル



花ーカキツバタ



木ーカツラ



鳥ーセキレイ

イ 気候変動

気候変動の影響はさまざまな形で、私たちのまわりに顕在化しています。第二次計画では、公共施設への太陽光発電システムやペレットストーブ等の木質バイオマスの導入の促進、一般住宅への太陽光発電システム等設置補助制度の実施等により、温室効果ガス排出量の削減を図ってきましたが、目標値には達していません。気候変動対策を進めるには、今までの取組に加え、ZEH\*（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）、ZEB\*（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）等の新しい技術の活用や、既に生じ、またこれから予測される気候変動に適応するための取組が重要となります。

気候変動対策の重要性が高まる中、近年、新たな問題として、再生可能エネルギー\*設備の設置が自然破壊や景観への悪影響を及ぼすケースが生じています。今後は、このような問題に対応して、適切な再生可能エネルギー設備の設置を推進していく必要があります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
顕在化する気候変動の影響	今までの取組に加え、新たな技術を活用	第4章 - 1 - (2) 新たな技術の活用 (P27) 第5章 - 2 - (2) エネルギーの効率的な利用の促進 (P43)
	気候変動への適応	第4章 - 3 - (1) ライフスタイルの転換 (P34) 第5章 - 2 - (5) 気候変動への適応 (P45)
再生可能エネルギー設備による自然破壊等の影響	適切な再生可能エネルギー設備の設置	第5章 - 2 - (1) 再生可能エネルギー等の普及促進 (P43)

ウ 循環型社会

第二次計画では、循環型社会の形成を目指し、ごみ減量、資源再利用化の推進を図っており、家庭ごみの排出量が減少傾向にあるなど、日常的な啓発活動の成果が表れているものと考えられます。

しかし、本市における1人1日当たりのごみ排出量は県全体平均よりも多く、また、管理指標である資源率も当初の値を下回っており、今後もさらなる取組を行っていくことが必要となります。また、近年問題となっている食品ロスについては、本市における実態を踏まえて、他計画との整合を図りながら、取組を行っていく必要があります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
県全体平均よりも高いごみの排出量・資源率の低下	3Rの推進	第4章 - 1 - (1) 環境ビジネスの拡大 (P27) 第5章 - 3 - (1) 3Rの推進 (P47)
食品ロスの課題	食品ロスの実態把握・対応	第4章 - 3 - (1) ライフスタイルの転換 (P34) 第5章 - 3 - (1) 3Rの推進 (P47)

## エ 自然環境

本市は、市街地においても貴重性の高い植生が見られるなど、多くの優れた自然環境を有しています。第二次計画では、多くの管理指標が達成もしくは達成に準ずる実績となっており、まちづくりアンケート調査でも多くの方が「自然が守られていると思う」や「公園や街路樹などのまちの中の緑が多いと思う」と答えています。

水や緑や空が、守るべき環境であるということを改めて認識し、今後も豊かな自然環境を守り続けていくことが必要となります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
良好な状態の維持	自然環境保全の継続した取組	第4章 - 2 - (1) 自然・歴史・快適な都市機能が調和したまちづくり (P30) 第4章 - 2 - (2) 地域資源の最大限の活用 (P31) 第5章 - 4 生物多様性を確保しながら、人と自然が共生できる社会の形成 (P49~51)

## オ 生活環境

本市における大気汚染や水質汚濁など、市民生活の健康や安全に係る環境はおおむね良好な状態に保たれています。第二次計画では、各管理指標は目標未達成の項目が多くなっていますが、達成率を数値として見ると、おおむね高い達成率となっています。

また、景観についても各種取組により良好な景観の維持形成が図られており、景観計画の基準に適合した建築行為等の割合は100%を維持しています。

今後も安全・安心な生活環境を守るとともに、自然環境と歴史的環境が調和した盛岡らしい景観の保全・形成に取り組むことが必要となります。

課題	必要となる取組	本計画における施策
良好な状態の維持	生活環境保全の継続した取組	第4章 - 3 - (3) 暮らしの基盤となる生活環境の保全 (P35) 第5章 - 5 - (1) 安全・安心な生活環境の保全 (P53~54)
	景観保全の継続した取組	第4章 - 2 - (1) 自然・歴史・快適な都市機能が調和したまちづくり (P30) 第5章 - 5 - (2) 魅力的な景観の保全・形成 (P54)

## 北上川の歴史

### 北上川は東北地方を代表する清流の一つ

本市を南北に流れる北上川は、岩手町御堂を源泉として岩手県から宮城県へ流れる東北最大の河川であり、冬には白鳥が飛来し、秋には鮭が遡上するなど東北地方を代表する清流の一つとなっています。河川の水は、農業用水や生活用水として利用されるなど私たちの生活に欠かせません。また、河川や水辺にはたくさんの鳥や魚、昆虫などがすみ、草花や樹木もみられ、河川の景観では市全域で「北上川」が象徴的な存在となっています。



北上川

### 旧松尾鉱山の坑廃水による水質汚濁

現在の北上川は私たちにさまざまな恵みをもたらしてくれますが、河川が茶色く濁り、大きな社会問題となった時代もありました。

明治15年（1882年）に岩手県八幡平の中腹で硫黄鉱床の大露頭が発見され、松尾鉱山として硫黄を生産し、当時の埋蔵量は東洋一の規模を誇ったといわれています。硫黄は、肥料や医薬品等のさまざまな原料として使用され、日本の近代化にも大きく貢献しました。しかしながら、昭和47年（1972年）に閉山した後も鉱山から流出する大量の坑廃水が北上川の支流である赤川に流出し続け、強酸性水で有害物質のヒ素も含んでいることから、北上川の水質汚濁が大きな社会問題となりました。

この強酸性水により、北上川は魚類の生息できない川となり、その影響は宮城県境まで及びました。

### 現在もそして将来まで続く坑廃水処理

昭和56年（1981年）に、旧松尾鉱山から流出する強酸性水を中和し水質汚濁を改善するための中和処理施設が完成し、施設による坑廃水処理が開始されるとともに、北上川は清らかな流れを取り戻しました。この施設は現在でも稼働しており、清流を保つためには、22世紀になっても継続する必要があると見込まれています。

### 将来世代にも現在の清流を引き継ぐために

多くの人々が努力してきた歴史を経て現在の清流が保たれていること、坑廃水処理を継続することで、将来世代に現在の清流を引き継ぐことができるということは忘れてはならない大切なことです。



盛岡・北上川ゴムボート川下り大会